月例研究報告

天龍寺造営に関する一考察

モリー・ヴァラー

夢窓疎石（1275 ～ 1351）は、鎌倉時代から室町時代にかけて、乱世に活躍した臨済宗の禅僧として知られている。夢窓疎石は、北条家、後醍醐天皇、足利尊氏、足利直義など、皇族や武家とも親密な関係を持ち、五山の制度の形成にも大きく貢献した。また、彼は多種多様な著書を残し、中世文化に大きな影響を与えている。そこで、報告者は、現在、仏教史学、庭園史学、文学などのアプローチを用いながら、夢窓の作品とその思想に関する研究を行っている。本報告では、夢窓が開山した天龍寺について紹介する。

天龍寺は後醍醐天皇（1288 ～ 1339）の菩提を弔うため、光厳院（1313 ～ 1364）の勅令を受け、足利幕府によって創建された。大陸に派遣された天龍寺船の存在はあまりにも有名であろう。未完成のまま1342年に京都五山の第二位に位置付けられ、1345年に落成された。

また、この天龍寺には、乱世における夢窓の微妙な立場も反映されていると考えられる。夢窓は鎌倉末期に、北条政権最後の有力者の庇護を受けたのち、北条家の対抗勢力である後醍醐天皇の後援を受けた。足利尊氏によって後醍醐天皇の建武の新政（1334 ～ 1336）が崩壊すると、夢窓は北朝や足利幕府の手厚い保護を受け、光厳院、光明天皇（1321 ～ 1380）、足利尊氏、足利直義の帰依を受けた。

夢窓の見た天龍寺は、様々な意義があったと考えられ、その全体的な意義を明らかにする必要があるだろう。

参考文献

小島毅監修、鳥尾新編『東アジアの海域に漕ぎ出す4　東アジアのなかの五山文化』東京大学出版会、2014年。
菅基久子「護国と清浄―天龍寺創建と夢窓疎石」『国家と宗教：日本思想史論集』思文閣、1992年。
禅文化研究所編『夢窓国師語録』大本山天龍寺僧堂、1989年。
玉懸博之「夢窓疎石と初期室町政権」『日本中世思想史研究』ぺりかん社、1998年。
玉村竹二『夢窓国師　中世禅林主流の系譜』平楽寺書店、1958年。
辻善之助『仏教史』第4巻、中世編之3、1949年。
奈良本辰也編『天龍寺』東洋文化社、1978年。
西山美香『武家政権と禅宗: 夢窓疎石を中心に』笠間書院、2004年。
西山美香「天龍寺供養の史的意義をめぐって」『禅文化研究所紀要』28号、2006年。
原田正俊『日本中世の禅宗と社会』吉川弘文館、1998年。
原田正俊編『天龍寺文書の研究』思文閣、2011年。
八木聖弥「室町初期の怨霊思想：天龍寺創建をめぐって」『文化史学』49号、1993年。
柳田聖山『夢窓：日本の禅語録』講談社、1977年。
Collcutt, Martin. “Musō Soseki.” In *The Origins of Japan’s Medieval World*. Edited by Jeffrey P. Mass,

261–294. Stanford: Stanford University Press, 1997.

Goble, Andrew. “Visions of an Emperor.” In *The Origins of Japan’s Medieval World*. Edited by Jeffrey P. Mass, 113–137. Stanford: Stanford University Press, 1997.